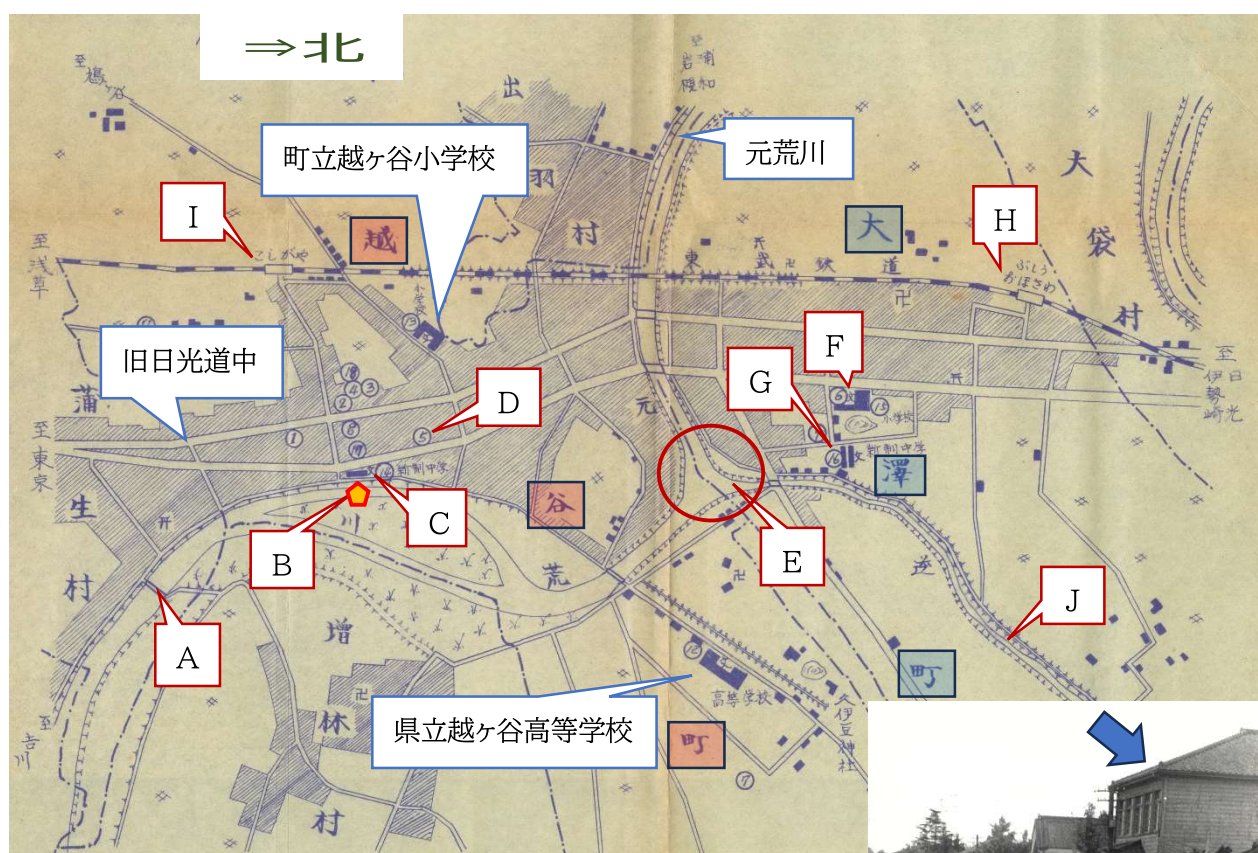




すでに4月中に葛西用水への通水で瓦曽根溜井は満水となって、大型連休の間に代掻きの終えた田んぼには稲の苗が植えられました。「代」には水田という意味もあります。最近「玉苗」という言葉はあまり聞かれませんが、玉は魂に通じ、心を込めて育てた苗のことだそうです。(『唱歌・童謡ものがたり』岩波書店)

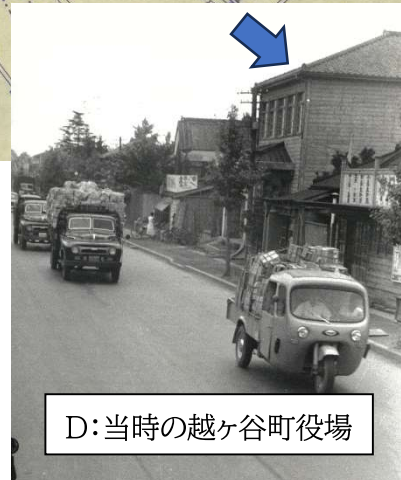
地図から見える新生の息吹

2年ほど前に市立越ヶ谷小学校から寄贈された史料を整理しているところですが、その中に昭和29年(1954年)頃の越ヶ谷・大沢の地図がありました。この時期の当地の地図としては希少なものです。市制施行前の状況を表しています。また、現在と比べて農地が多いことが分かりますが、その他の違いをみてみましょう。



A=かつての平和橋(現在はありません。) B=現在の越谷市役所
C=当時の越ヶ谷中学校 D=当時の越ヶ谷町役場(右写真矢印の建物)
E=元荒川と葛西用水が繋がっていました。(現在は立体交差)
F=大沢町役場と大沢町立大沢小学校(現在は越谷市消防局)
G=大沢町立大沢中学校(現在は越谷市立大沢小学校):後に大沢中学校は越ヶ谷町立越ヶ谷中学校と統合して越谷市立中央中学校になりました。

H=当時の武州大沢駅(現在の北越谷駅) I=当時の越ヶ谷駅(現在の越谷駅) J=葛西用水(逆川)
※C・Gには「新制中学」の文字が見えます。元荒川を境にして越谷町、大沢町、増林村に分かれています



D:当時の越ヶ谷町役場

終戦後の混乱は少し落ち着き、新たな生活を作りつつあった頃です。「平和橋」という名称や「新制中学校」、また、越ヶ谷小学校敷地内にあった越ヶ谷町役場が移転した様子などからも、新生の息吹が感じられます。

100年前の越谷は・・・

今年は“昭和 100 年”となる年です。100 年前の世の中はどのような姿だったのでしょうか。年表にしてみると、市域でも中等学校(旧制)が整備されたり市井の人々の文化活動が盛んになっていった様子がうかがえます。この頃、市域の村々にも電灯が灯るようになりました。第一次世界大戦と第二次世界大戦の間の時代でした。

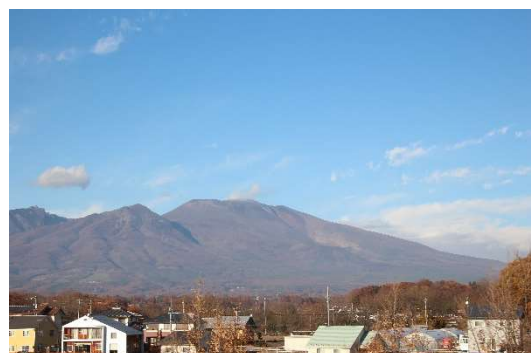
	市域の出来事	日本全体の動き	世界の動き
大 正	桜井・大袋村に電灯がつく 1922～23 文芸誌「明詩」発刊 1925 越ヶ谷ラジオ同好会結成 1925 越ヶ谷町立実践女学校設立 1926 荻島村に電灯がつく 1926	大正デモクラシー・新教育の動き 関東大震災 1923 ラジオ放送開始 1925 普通選挙法・治安維持法成立 1925	ソ連成立 1922
昭 和	越ヶ谷町立実践女学校が 埼玉県立越ヶ谷高等学校となる 1930 文芸誌「曠野」発刊 1930 越ヶ谷高等学校火災 1931 翌年落成	金融恐慌起こる 1927 第 1 回普通選挙 1928 満州事変 1931 東北・北海道で大凶作 五・一五事件 1932 国際連盟脱退 1933	世界恐慌発生 1929 ロンドン軍縮会議 1930 ヒトラー政権成立 1933

大災害からの再生

安政3年の浅間山大噴火から学ぶ

地震や火山活動が多い日本列島です。本邦最高峰の富士山もその噴火について時折報道されています。

今から242年前の天明3年、浅間山の大噴火がありました。現在は高原野菜の産地である嬬恋村一帯は大きな損害を受けました。そのことについて、簡易な展示を行っています。



現在の浅間山(南側から撮影)

◆被災村の中で当時の^{かんばら}鎌原村は6mの土石に埋まりました。何人かは高台に逃げましたが、その目前で仲間が犠牲になりました。何故間に合わなかったのでしょうか・・・



この地表から6m下に当時の村がありました。

◆鎌原村の生存率 16%。村人はどうやって村を再建したのでしょうか。

◆江戸川河口近くの善養寺には供養碑があります。何故そこに？

◆当時、越ヶ谷でも不作になったそうです。浅間山から 130 kmも離れているのに何故？ そのことに対して越ヶ谷の人々はどうしたのでしょうか。

展示期間:5月24日(土)～6月30日(月) 毎週水曜日は休館 展示期間中は入館無料

展示場所:「旧東方村中村家住宅」越谷市レイクタウン九丁目51番地 電話:048-986-7051

なお、本展示は7月12日(土)～18日(金)に、市役所エントランスホールでも行う予定です。